

## 『文化財と技術』

## 第7号

## ＜特集 ヤマト王権と地域王権／技術の繋がり＞

- 第一部 ヤマト王権と地域王権／技術の繋がり
- 鈴木勉 三角縁神獸鏡製作地論と古墳時代研究
- 前田亮 技術と継承 ―その繋がり―
- 福井卓造・鈴木勉 ヤマト王権と地域王権の確執  
―遅らされた技術移転「冶鉄技術」―
- 上柁武 岡山県猿喰池製鉄遺跡の製鉄炉と技術継承論
- 李東冠・武末純一 百済の鉄と製鋼技術に関する試論  
―梯形鑄造鉄斧を中心に―
- 金跳咏 東北アジアにおける鉄器文化の到来と限冶供鉄政策
- 鈴木勉・金跳咏 新山古墳・大成洞古墳群 88 号墳出土  
金銅製帯金具などの円文たがね
- 第二部 古代東アジアの装飾技術
- 沢田むつ代 古墳出土の鉄刀と鉄劍の  
柄巻きと鞘巻きの種類と仕様の事例
- 金字大 新羅における垂飾付耳飾の系統と変遷
- 李漢祥 皇南大塚北墳嵌玉腕輪の製作工程と製作地
- 金跳咏・鈴木勉 皇南大塚北墳出土「夫人帯」銘銀製帯金具の線彫り技術について
- 鈴木勉 朝鮮半島三国時代の彫金技術 その 15～19
- その 15 国立慶州博物館・菊隠 collection 大刀の双連珠凸魚々子文  
―藤ノ木古墳出土鞍金具の出自を求めて―
- その 16 天安龍院里出土龍文環頭大刀の金板圧着技法とは
- その 17 李漢祥「陝川玉田 M3 号墳龍鳳紋大刀の  
環部製作工程」への批判
- その 18 慶尙南道 咸陽郡 白川里 1 号出土大刀のうろこ文の打ち出し
- その 19 全北高敞郡雅山面鳳德里古墳群 1 号墳出土飾履の  
製作技術の疑問
- 第三部 復元研究報告
- 鈴木勉 群馬県山王金冠塚金銅製冠の復元 4～6
- 4 新羅の出字形冠 その 2
- 5 林堂洞 7 A 号墳金銅製冠
- 6 林堂洞 7 C 号墳金銅製冠
- ＜付録＞
- 鈴木勉 三角縁神獸鏡の仕上げ加工痕と製作体制  
(『河上邦彦古稀記念論集』2015 年より転載)

# 『文化財と技術』第7号 目次

## <特集 ヤマト王権と地域王権／技術の繋がり>

### 第一部 ヤマト王権と地域王権／技術の繋がり

三角縁神獸鏡製作地論と古墳時代研究	鈴木 勉	5
技術と継承 —その繋がり—	前田 亮	10
ヤマト王権と地域王権の確執 —遅らされた技術移転「冶鉄技術」—	福井卓造・鈴木勉	32
岡山県猿喰池製鉄遺跡の製鉄炉と技術継承論	上 梶 武	40
百済の鉄と製鋼技術に関する試論 —梯形鑄造鉄斧を中心に—	李東冠・武末純一	63
東北アジアにおける鉄器文化の到来と限冶供鉄政策	金 跳 咏	78
新山古墳・大成洞古墳群 88 号墳出土 金銅製帯金具などの円文たがね	鈴木勉・金跳咏	101

### 第二部 古代東アジアの装飾技術

古墳出土の鉄刀と鉄剣の柄巻きと鞘巻きの種類と仕様の事例	沢田むつ代	111
新羅における垂飾付耳飾の系統と変遷	金 宇 大	143
皇南大塚北墳嵌玉腕輪の製作工程と製作地	李 漢 祥	180
皇南大塚北墳出土「夫人帯」銘銀製帯金具の線彫り技術について	金跳咏・鈴木勉	197
朝鮮半島三国時代の彫金技術 その 15～19	鈴木 勉	205
その 15 国立慶州博物館・菊隠 collection 大刀の双連珠凸魚々字文 —藤ノ木古墳出土鞍金具の出自を求めて—		
その 16 天安龍院里出土龍文環頭大刀の金板圧着技法とは		
その 17 李漢祥「陝川玉田 M3 号墳龍鳳紋大刀の環部製作工程」への批判		
その 18 慶尙南道 咸陽郡 白川里 1 号出土大刀のうろこ文の打ち出し		
その 19 全北高敞郡雅山面鳳德里古墳群 1 号墳出土飾履の製作技術の疑問		

### 第三部 復元研究報告

群馬県山王金冠塚金銅製冠の復元 4～6	鈴木 勉	223
4 新羅の出字形冠 その 2		
5 林堂洞 7 A 号墳金銅製冠		
6 林堂洞 7 C 号墳金銅製冠		

### <付録>

三角縁神獸鏡の仕上げ加工痕と製作体制 (『河上邦彦古稀記念論集』2015 年より転載)	鈴木 勉	233
--	------	-----

## 第二部 古代東アジアの装飾技術

古墳出土の鉄刀と鉄剣の柄巻きと鞘巻きの種類と仕様の事例	沢田むつ代	111
新羅における垂飾付耳飾の系統と変遷	金宇大	143
皇南大塚北墳嵌玉腕輪の製作工程と製作地	李漢祥	180
皇南大塚北墳出土「夫人帯」銘銀製帯金具の線彫り技術について	金跳咏・鈴木勉	197
朝鮮半島三国時代の彫金技術 その15～19	鈴木勉	205
その15 国立慶州博物館・菊隠 collection 大刀の双連珠凸魚々子文 －藤ノ木古墳出土鞍金具の出自を求めて－		205
その16 天安龍院里出土龍文環頭大刀の金板圧着技法とは		208
その17 李漢祥「陝川玉田 M3 号墳龍鳳紋大刀の環部製作工程」への批判		210
その18 慶尙南道 咸陽郡 白川里 1 号出土大刀のうろこ文の打ち出し		214
その19 全北高敞郡雅山面鳳德里古墳群 1 号墳出土飾履の製作技術の疑問		217

## 全北高敞郡雅山面鳳德里古墳群 1号墳出土飾履の製作技術の疑問

鈴木 勉

2012年11月20日、韓国国立文化財研究院（大田市）で全北高敞郡雅山面鳳德里古墳群1号墳出土飾履を見ることができました。



図1 全北高敞郡雅山面鳳德里古墳群1号墳の飾履の報道写真

写真は撮らせてもらえなかったのですが、実物を見せていただきました。その部屋の壁面にX線写真と履の全体像が写ったポスターが貼られていましたので、その写真の撮影の許可をいただきました（図2、3）。最新の2015年5月の情報では、韓国国立中央博物館で展示されているそうです。

履の上板を見ると、亀甲文の中に鳳凰や龍がいて、底板には龍文の透彫りに花文が配されています。どれも精緻な透彫り技術が施されています。一見、通常金銅透彫り製品と同じつくりに見えるのですが、とても気になることがありました。鳳凰や龍が僅かではあるがレリーフ（薄肉彫り）に見えたのです。周囲のパルメット文は通常の銅板の透彫りに見えるのですが、花文や龍や鳳凰はレリーフに見えたのです。レリーフ（薄肉彫り）となると鑄造の可能性が出てきますが、そこだけ鑄造で作るとは考えにくいのです。また、素材の厚さはとても薄くて、これも測定することが出来ないで目測で0.3から0.5mm程度ではないでしょうか。ですから、わずかですが鑄造製である可能性を残して、銅板の透彫り製品だと考えておくこととしました。しかし、鑄造の可能性は少しだけ残りました。私は金工を専門とするからには、考古学のように「蓋然性」だけで論じるわけにはいきません。

そのわずかな可能性を捨てることも出来ず、その場におられた国立文化財研究院の文化財保存科学センターの権赫男氏に「銅板に錫が含まれているか調査してほしい」と伝えました。この履を鑄造製と考える人はまずいない中で、鑄造の可能性を捨てることが出来なくて、念のために材料分析



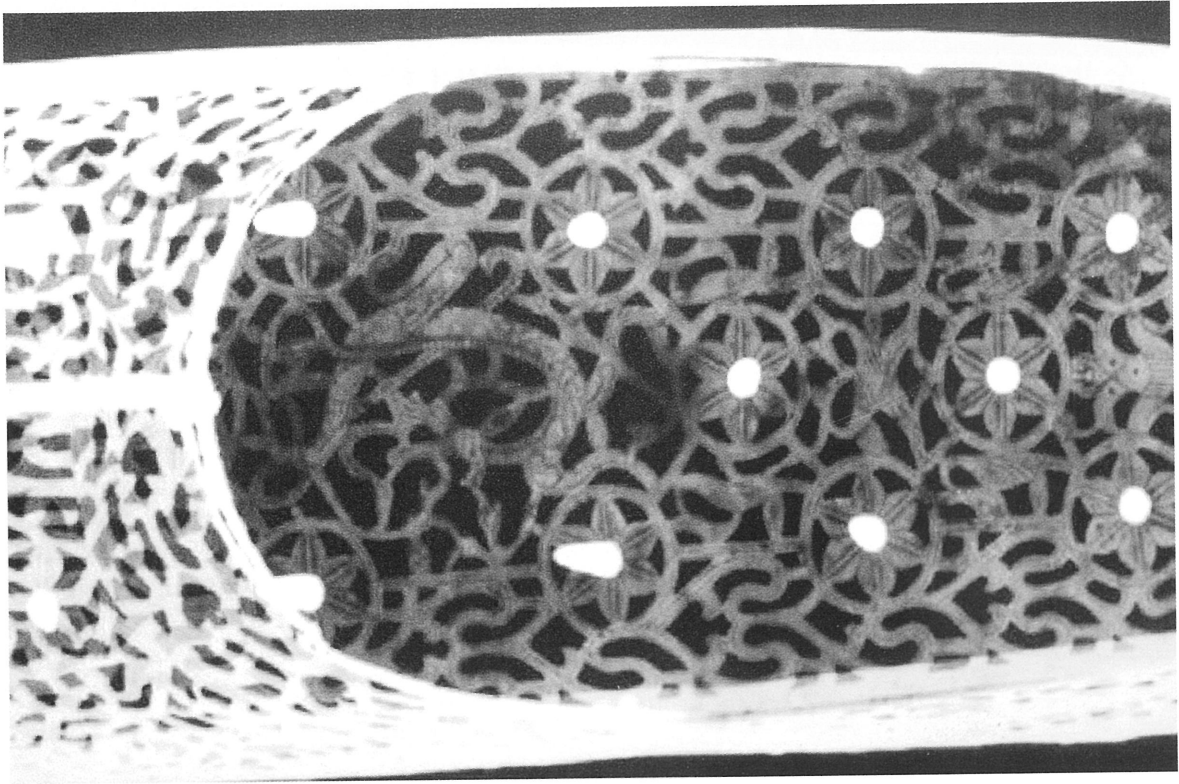


図2 全北高敞郡雅山面鳳德里古墳群1号墳の飾履のX線写真(部分、ポスターから複写)

をお願いしたのです。錫が含まれていれば、履は鑄造製の可能性が大きくなるのです。銅錫合金つまり青銅は展延性が失われるため薄い銅板をつくるのが難しいからです。言葉の壁があつて、私が「鑄造説」を唱えたと勘違いされてしまう可能性もありましたが、私はあえて重ねて材料分析の

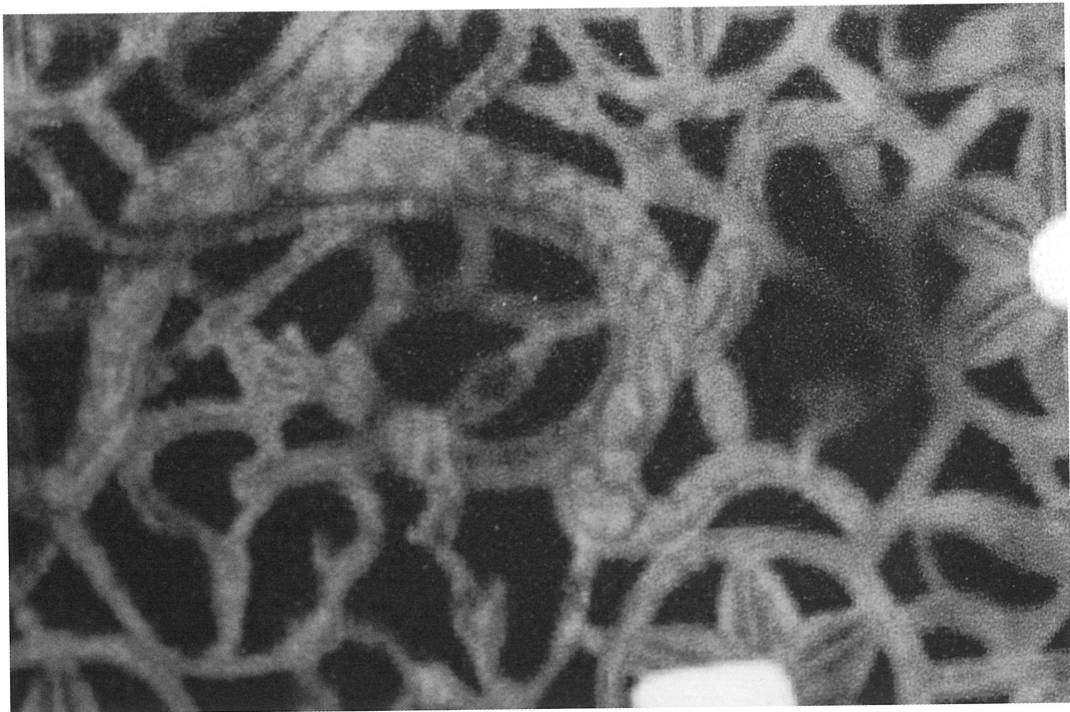


図3 全北高敞郡雅山面鳳德里古墳群1号墳の飾履のX線写真(部分、ポスターから複写)

実施をお願いしました。金工を専門とするものには、わずかでも残る可能性はしっかりと調査して確かめたいところです。その調査はとても簡単です。いまはどこの保存科学研究室にも配備されている非破壊検査用のX線回折装置で錫が含まれているかどうかを検査すれば良いのです。

それにしても、百済のローカルな金工品には見事な出来のものが 있습니다。全北高敞郡雅山面鳳德里古墳は、漢城期の百済では未だローカルな地域であっただけに、なおさらその出来の良さに驚かされました。これまで発表された公州水村里Ⅱ地点1号土壙墓出土金銅製冠や水村里Ⅱ地点4号石室墳出土金銅製冠、瑞山富長里墳丘墓5号墳1号土壙墓出土金銅製冠等の金銅製透彫り製品もローカルな地域からの出土品ということが出来ますが、鳳德里群1号墳の飾履はそれらと比べても出色の出来です。

さて鳳德里古墳群1号墳の飾履の上板の亀甲文はとても小さく、その中に精緻な鳳凰文が施されています。亀甲文の交点にガラス玉象嵌こそありませんが、藤ノ木古墳出土海金具の亀甲文を彷彿とさせる精緻なものでした。これが鑄造製であればなお一層、鍛造製であっても、藤ノ木古墳出土海金具との関係についてよく研究しなければならないと考えました。

さらに同古墳からは倭製須恵器とも目されている土器が発見され、日本列島との関連が強く指摘されています。とても注目すべき古墳です。

## 文化財と技術 第7号

2015年12月1日 印刷

2015年12月1日 発行

編集	鈴木 勉
発行	特定非営利活動法人 工芸文化研究所 所長 鈴木 勉
発行所	特定非営利活動法人 工芸文化研究所 所長 鈴木 勉 東京都台東区根岸5-9-19 (〒110-0003)
印刷	千葉刑務所 千葉県千葉市若葉区貝塚町192 (〒264-8585)